

国立研究
開発法人 海上技術安全研究所 国際会議報告

会 議： 国際標準化機構（ISO）船舶及び海洋技術専門委員会（TC 8）救命及び防火分科委員会（SC 1）防火作業部会（WG 3）

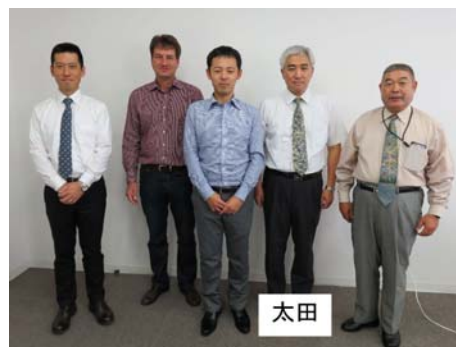
開催場所： 京都烏丸コンベンションホール（京都市）

会議期間： 2015年10月14日及び15日

参加組織： ガス検知器メーカー（ドイツ、日本）、日本船舶技術研究協会、海上技術安全研究所

海技研からの出席者： 太田 進 国際連携センター長

概要： ISO/TC 8/SC 1/WG 3 は、ISO 19891-1 “Ships and marine technology — Specifications for gas detectors intended for use onboard ships — Part 1: Portable Gas detectors for atmosphere testing of enclosed spaces”（船舶及び海洋技術—船上で用いるガス検知器の仕様—閉鎖された区画の雰囲気試験のための可搬型ガス検知器）の案を検討し、公開仕様書（Publicly Available Specification：PAS）の案を作成した。



会議の出席者

主な貢献： 太田は国内対応作業部会の主査として会議に参加し、規格案の策定に貢献した。

審議結果

1 背景

SOLAS 条約附属書第 XI-1 章新 7 規則により、2016 年 7 月 1 日より、条約対象船舶は船種によらず、閉鎖区画に立ち入る前にガスを計測するための検知器を備えることが要求される。このためのガス検知器の仕様をより明確にするため、我が国は持ち運び式ガス検知器の規格を早急に策定することとし、日本船舶技術研究協会松本氏に、本 WG のコンベナー及び本規格のプロジェクトリーダーを引き受けていただき、当所も協力して規格を策定中である。

2 会議の結果

WG は、会議に先立って集められた各種のコメントを検討し、ISO 19891-1 の案を仕上げた。警報レベルの設定、耐環境試験基準等について活発に意見を交換した。

3 今後の予定

本 WG で合意された案は、TC 8/SC 1/WG 3 メンバーに回章された後、公開仕様書及び委員会原案（Committee Draft）にするための投票（期間：二ヶ月）にかけられる予定。順調に行けば、前述の条約の発効前に、公開仕様書が発行される。その後、引き続き審議され、国際標準（International Standard）が策定される予定。

4 次回会合

ISO/TC 8/SC 1 の会合は 2016 年春にアイスランドで開催される予定であり、その際、WG 3 も開催され、本規格案も引き続き審議される予定。